

第3回東御市地球温暖化対策地域推進計画検討委員会議事録

H21.11.24(火) 15:00～18:00
東御市舞台が丘会館2階大会議室

【出席者】

(委員)

佐藤 哲委員長、宮原 則子副委員長、今井 道博委員、清水 賢司委員、久木田 淳委員、石川 昭隆委員、正田 寿男委員、関 正喜委員、高藤 圭一委員、関 幸枝委員、森 まり子委員、新田 詔三委員、中澤 亥三委員、荻原 猛委員、工藤 浩平委員

〔欠席：なし〕

(事務局)

山浦市民生活部長、小菅市民課生活環境係長、寺田市民課生活環境係主査
西本技術部長(玉野総合コンサルタント)、中根係長(玉野総合コンサルタント)

【配布資料】

- ・東御市地球温暖化対策地域推進計画検討委員会会議次第
- ・資料1 東御市地球温暖化対策地域推進計画(素案)
- ・資料2 東御市地球温暖化対策地域推進計画策定スケジュール

【議事】

1. 開会

2. 会議事項(事務局説明)

(1) 地球温暖化対策地域推進計画(素案)について

「資料1 東御市地球温暖化対策地域推進計画(素案)」

3. 会議事項(1)に関する委員からの意見と回答

3-1 「計画の趣旨」に関する委員からの意見と回答

【キャッチフレーズについて】

新田委員

全般的にはこれで良いと思うが、市民がわかりやすい柱のようなものが必要と考える。エコビレッジという世界に15,000箇所ある共生の社会があるが、それに習い欠かせない3つのものを柱としてはどうか。「エネルギーの消費を減らす」、「対話をし、心を豊かにするコ

「コミュニティ社会」「健康と希望のある社会」など東御市としての柱を示したほうがわかりやすい。

佐藤委員長

3つ程度のキャッチフレーズをつくるということ。是非検討していただきたい。
エネルギー消費が減るだけでなく、社会的なビジョンを示すということ。

【計画に誇りを持ち、発信することについて】

佐藤委員長

計画にある地球温暖化対策に取り組むことが、市民・事業者・行政が誇れるものであるというような主張があっても良いのではないかと。東御市が素晴らしいことをしているという意識を市民にもってもらおう。また、市民が計画の実行状況を知ってもらい全国に発信していくことをどこかで触れてもらいたい。

中澤委員

東御市は東京から近く、東御市に住みたいと思っている方もいる。東京の人達に向かって、こんないい暮らしができるという計画を創りたい。CO2削減だけでなく、市全体の活性化につながっていくことを示したい。

【地球温暖化防止に大きく貢献することについて】

工藤委員

文章の最後に東御市が地球温暖化防止に大きく貢献し、それを発信していくことを追加表記してほしい。

3-2 . 1～3章に関する委員からの意見と回答

【温室効果ガス排出量について】

中澤委員

前回の委員会資料と比較して、基準年の温室効果ガス排出量が10%程度少なくなっているが、どちらが正しいのか。

事務局（コンサル）

県が示している各エネルギーの温室効果ガス排出量を基に推計をし直しました。

中澤委員

基準がフラフラするとまずいので、わかりやすく安定した数値でお願いしたい。

佐藤委員長

今後も計算手法が変わる可能性はあると思うが、以前のデータと整合をとることが重要になると思う。基準年の数値が減ることは、より厳しくなったと考えられる。

3-3 . 4章に関する委員からの意見と回答

【新たな施策について】

久木田委員

石油を天然ガスに変えるなど、燃料を変更することでCO2削減を行う考え方が入っていない。例えば、検討にあげられているバイオエタノールを2%ガソリンに入れるなども考えられる。

佐藤委員長

2012年までの短期的施策として事業者が取り組みやすい内容だと思います。ガソリン車からLPG車に変えるなどが考えられる。是非、検討をお願いしたい。目標達成のためにはあらゆる手段の検討が必要だと思う。

【効果大を目指すことについて】

中澤委員

効果中、小の11%や7%では仕方がない。13%削減目標を達成するためには、効果大までやらないといけないと記載すべきと思う。

佐藤委員長

効果中、小は今のまま努力しないケースを示すものと考えている。効果大の場合でなければ、何もしない方がましということではない。2012年に効果小になりそうな場合、今後さらに頑張らなければならないという考えを持つ点で有効な表現だと考える。あくまでも、効果大を目指すことは、記載したほうが良いと思う。

【削減ケースの細目について】

佐藤委員長

効果大、中、小それぞれのケースにおける、市の施策の細目を示してほしい。どのケースにはどの施策が入っているのか分かるようにしてほしい。

森委員

効果大、中、小における具体的な施策を示して欲しい。何からやって良いのかを目に見える形で示して欲しい。市民全体に広げるためにわかりやすく示して欲しい。

佐藤委員長

優先順位を示して欲しいということだと思う。効果小、中、大の順に優先順位というわけではないと思う。効果が大きいものから並べるということになるのかもしれない。

事務局

削減量の大きさだけでなく、各施策の実現性の問題もあります。取組の実現性は効果小、中、大になる。

佐藤委員長

まずは、効果小、中、大の施策の内容がわかるようにしてください

森委員

市民がやること、事業者がやること、行政がやることにも分けて欲しい。

【排出量取引について】

荻原委員

排出量取引を3,000トンCO₂見込んでいるが、具体性がわからない。最初からカーボンオフセットを考えるのはいかがなものか。13%削減の目標に向かって何を考えるべきではないのか。

佐藤委員長

排出量取引にはグリーンエネルギーの購入などが考えられるが、先ほど意見のあったエネルギー源を変えていくなどの施策を盛り込むなど、3,000トンCO₂の削減を他の施策で補う可能性を再検討すべきである。後日でも結構なので、委員のみなさんからも提案をお願いしたい。

工藤委員

排出量取引は国際間での取引なのか。国内や東御市内での取引はありえるのか。

事務局

国内取引の仕組みが近々出来る予定になっています。

【中期削減目標の表現の仕方について】

佐藤委員長

中期目標の部分に、2012年に効果小、中、大になった場合の温室効果ガス削減の大変さがわかるような図を作成してください。

3-3. 5～6章に関する委員からの意見と回答

【バイオディーゼルについて】

宮原副委員長

黒姫のバイオマス燃料研究施設を見学したところ、コストがかかる、つなぎの手段であるとの見解であった。計画は絵に描いた餅ではいけない。実現可能性の検討は、どのように検討されているか。

事務局

廃食用油のバイオディーゼル利用2,000Lを想定している。コスト高ということであれば、これは、困難になる。

荻原委員

商工会で、一年半前ほどから廃油の利用検討を、立ち上げている。発表できる段階ではないが、市民の方に協力をもらえれば、そんなに、お金のかかるものではない。市民の協力は、ぜったい必要。植物系は利用可能、動物油はできない。5以下になる冬季は難しい。商工会では、エコポイントと連動しようという検討もされている。

宮原副委員長

我が家では、食用については、差し油をし、食べきって、廃油を出さないような取組をしている。

森委員

すべての家庭が、廃油を出さないように使い切るのはむづかしい。それを見込んで廃油のバイオディーゼル化は良いと思う。黒姫の研究施設は、雑木や雑草をバイオエタノール化で、研究者も費用がかかる。研究も自動車での利用もあまり良好ではなかった。バイオエタノール化の表現については、検討が必要ではないか。

中澤委員

薪や薪の利用も、バイオマスエネルギーである。

佐藤委員長

木質エタノールなどは、今後の技術の進展では可能性はある。オプションとして、残しておくのが良い。バイオディーゼルの目標値の根拠は、为什么呢。

事務局

クリーンセンターで集めている廃油の数値を基に、今後周知徹底による増加を見込んで、数値を出しています。

【取り組みの削減量の詳細について】

中澤委員

P69.70の表の具体的な取組で、どれだけ削減されるか、詳細を加えてはどうか。

佐藤委員長

資料編に取組の根拠を付けることで対応してください。

【パンフレットの作成について】

高藤委員

キャッチフレーズをつける、広報で紹介するなどの意見があったが、「これをやったら、これだけ減ります」を、前面に出した方が、市民にはわかりやすいのではないか。

佐藤委員長

市民向けのパンフレットを作成したほうが良い。

事務局

市民向けのパンフレットを作成します。また、本計画はホームページで公表するとともに、広報に取組内容などを取り上げたいと思います。

【地球温暖化対策ページの作成について】

佐藤委員長

東御市の取組を全国に発信するために、この計画の専用サイトがあるのが望ましい。市民

にわかりやすく伝えることが大切である。

事務局

インターネットの公開は、検討している。先進的な取組を行っている企業は、紹介をしたい。

【市民目線の取組について】

新田委員

市民が具体的に何をすれば良いかを、加えてほしい。高断熱の家は、新築でないとできないように感じられるが、例えば壁面緑化など、ちょっとした工夫で、エネルギーを減らせることを知ってもらうことが大切である。

佐藤委員長

市民が取組やすいメニューを示す必要がある。屋上緑化は、ポット栽培で行えるようなツールが市販されている。

関幸枝委員

若い人には、庭がなく簡素で安価な住宅が、人気が高いとのことである。

荻原委員

若い人は、コンクリートで草むしりの手間のかからない家が好まれ、年長者には、緑のある家が好まれるなど、二極化している。東御市では、個人住宅は三角屋根が多いので、屋上緑化に取り組む人は少ないと思う。市の施設であれば別。森の活用は、どのような指向でも対応できる。木を切ったら、新しい木を植えるなどのとりくみが必要。

佐藤委員長

家は、市民にとって最も身近なものの一つ。高断熱住宅の普及は、国・県の施策としており、市の施策として削減量は見込んでいない。市がさらに追加施策を行うというのは、選択肢としてあり得る。森の活用では、薪の供給のしくみを作り上げた事例がある。

【バイオマスについて】

中澤委員

農作物の食べない部分（作物がら）は、まとまれば、燃料として利用可能ではないか。バイオマスに追加してはどうか。

宮原副委員長

長野市では、リンゴの選定枝を決められた場所に置いておくと、必要な人が無料で持って帰り、燃料として使う制度があると聞いている。

佐藤委員長

選定枝をチップにし、ペレットストーブの普及ができないか。

今井委員

ペレットストーブは、まだ、灯油と比べるとコスト高である。森林整備事業では、間伐材を資源として市場に出すようになっている。

【デマンドバスについて】

工藤委員

デマンドバス、しなの鉄道の利用促進にあたっては、朝夕の定期化、増便や、昼間利用のなど、市の施策が必要である。

事務局

定期バスを走らせた時期もあったが、採算が取れなかった。デマンドバスは利用者が増えてきており、CO2削減につながっている。商工会ではより良いバス本数、利便性を考えている。しなの鉄道とデマンドバスのリンクについても考えている。一般の方のしなの鉄道の利用は少なく、通勤、通学がメインになっている。

佐藤委員長

長野大学では、「週に1回は、電車で」キャンペーンを呼びかけている。2割にあたるので、効果は大きい。需要を確保しつつ整備をされてはどうか。デマンドバス自体をLPG車にすることもある。

【輸送業への配慮について】

石川委員

フードマレージ、地産地消の部分の記載で、輸送業はいらないととられると、関連事業者の方は、おもしろくないのではないかと。

佐藤委員長

一方的に不利益をこうむるセクターが出ないような表現にしていきたい。地産地消は、地元産しか扱わないということではなく、地元にはないものは輸送業に全面的にお世話になっている。

【コンパクトシティについて】

久木田委員

市の都市計画での施策がない。都市ガスは、市街地が拡大すると供給ラインを延長しなければならない。水道なども同じである。コンパクトシティは、まちづくりの考え方として重要である。

佐藤委員長

2020年の中期目標では、まち作りとして低炭素社会のあり方の検討が必要である。

【事業者の取組について】

正田委員

P65 レジ袋削減、p63 デマンド交通（店舗に、待合所を設けてあり、市民に好評である。）の行動主体の所にぜひ事業者を加えていただきたい。

事務局

行動主体の市、市民、事業者の取組については、もう一度見直したい。

3-4 . 7章に関する委員からの意見と回答

【PDCA サイクルの目標について】

中澤委員

PDCA サイクルでは、実施結果の把握が不可欠だが、排出量の算定は、いつできるのか。

事務局

県別エネルギー消費量の統計を使うため、2年遅れになる。取組量の把握は、すぐできるので、こちらで進行管理が行えるのではないかと。

荻原委員

ゴミ減量の活動に取り組んでいるが、実績はすぐに把握できるようにしている。2年も遅れがあるのは、PDCA サイクルで管理を行えないのではないかと。

佐藤委員長

対策の実施量を指標にして、PDCA サイクルで、取組を管理するという考え方でよいと思う。

【組織体制について】

森委員

「景観を考える会」では、まちの家の形が大切だと考えている。かかわりが深いので、組織体制加えてはどうか。

佐藤委員長

組織体制は、新たに組織を立ち上げるばかりでなく、商工会や、レジ袋削減活動、運輸部門の事業者の集まりなど、既存のネットワークの活動とうまく連携をしていく必要がある。

荻原委員

商工会は、デマンド交通を運営しており、エコポイントの取組も行っている。ぜひ、加えていただきたい。

佐藤委員長

既存組織の取組を調べていただきたい。森林組合、企業、エネルギー関係などとのネットワークを検討していただきたい。

4 . 会議事項（事務局説明）

（2）地球温暖化対策地域推進計画のスケジュールについて

「資料2 東御市地球温暖化対策地域推進計画策定スケジュール」

次回を1月19日に予定している旨を説明。

5．会議事項（2）に関する委員からの意見と回答

佐藤委員長

パブリックコメントでは、ホームページを用いて掲載していただきたい。計画専用であれば、より好ましい。

以 上